

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 Md. Razib Mamun

論 文 題 目

Everyday wishes of older people living with dementia in care planning: a qualitative study

(認知症高齢者の日常生活の希望に関する質的研究)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

若井 建志

名古屋大学教授

委員

石井 晃

名古屋大学教授

委員

山本 英子

名古屋大学教授

指導教授

八谷 寛

論文審査の結果の要旨

36名の認知症高齢者（PLwD）に、2019年に実施した深層面接（インタビュー）結果を質的に検討した本研究では、繋がり、自由意志による決定、活動への参加、現状維持、他者への非依存の5つの「日常生活の希望」が明らかになった。明らかになった希望は主に感情的な側面に関するものであった。PLwDは家族とのつながりを好み、他人の干渉を受けずに様々な活動に参加して楽しい生活を送りたいと考えていた。彼らは現状維持し、他人の負担にならないことを望んでいた。本研究結果は、認知症高齢者をケアする人々に役立つであろう。

1. 本研究は、施設等に入所していないPLwDのみを対象としている。認知症外来を受診している患者から便宜的に対象者を募り、研究参加に同意を表明できた者を対象としたが、それでもPLwDが質問内容を十分理解できるように、面接では「日常生活の希望」という質問に対して、「優先したい行動」、「日常生活で期待すること」という補足説明を行い、また誤解を避け、より具体的な回答を得るために、どこで、どんな状況で、誰と、どういった活動についてのよう質問を追加した。インタビューは日本語で実施し、解析を英語で行った点も本研究で対応した困難な点の一つである。原文の文脈を維持しながらの翻訳のため、主任研究者とは異なる研究者が翻訳し、主任研究者が翻訳された逐語録を確認した。
2. 施設入所中のPLwDやPLwDの家族を対象とした先行研究では、身体的健康に関する希望が多いことが報告されている。さらに、一人暮らしのPLwDを対象とした先行研究では、介護者の近くに住みたい、仲間が欲しい、精神的に安らぎたい、日中の活動に参加したいといった希望やニーズが明らかにされている。本研究に参加したPLwDは全員が家族と同居しており、また身体的な自立度も高いことが推察され、PLwDの置かれている状況により「日常生活の希望」も異なる可能性が示唆される。またPLwDの「日常生活の希望」に関する家族の考えについて、本研究では調査しておらず、既報も少ないため、さらなる研究が必要と考えられる。
3. 一般高齢者とPLwDの「日常生活の希望」を直接比較した研究は我々の知る限りないが、一般高齢者の希望に関する先行研究において、それらは、健康維持、社会的つながりの維持、自己決定の保持、余暇活動への参加、精神的な安らぎ、宗教活動への参加、家族関係の維持、経済的安定の確保などであったと報告されている。本研究で明らかになったPLwDの「日常生活の希望」は、一般高齢者のそれと一致する部分もあるが、慣れ親しんだ環境や場所、活動などの現状を維持する希望と他者へ依存しないことへの希望が特徴的であった。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	Md. Razib Mamun
試験担当者	主査 若井 建志		副査 ₁ 石井 晃	
	副査 ₂ 山本 英子		指導教授 八谷 寛	
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 本研究の遂行にあたって克服した困難な点をあげよ。2. 一人暮らしのPLwDや施設入所中のPLwDの「日常生活の希望」と家族と同居しているPLwDの「日常生活の希望」との違いや、PLwDの「日常生活の希望」に対する家族の意見について考察せよ。3. 一般の高齢者と認知症高齢者（PLwD）の「日常生活の希望」にはどのような違いがあるか。 <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、国際保健医療学・公衆衛生学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				